

# 日本産材使用「木製サッシ」の一般・公共建築での利用拡大を推進 木の総合文化(ウッドレガシー)を推進 する議員連盟が「政策実現委員会」を開催

国内の林業・木材産業の振興に必要な政策の樹立及びその効果的な実施について国会、政府、行政等に対し積極的な「要望活動」を実施し、有益な政策提言を実施して来た(一社)木の総合文化(ウッドレガシー)推進協議会(LWPC)東京都板橋区常盤台4-13-13・日新興産株内、原口博光会長、☎03-3550-6311並びに、木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟(衛藤征士郎会長(自由民主党衆議院議員)、40議員余で構成)は、昨年11月に「民政官合同会議・第6回(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会要望活動発表会」を開催し、農林水産省、国土交通省、経済産業省、環境省、防衛省、文部科学省、厚生労働省、内閣官房の担当官が参席する中、要望活動団体・企業等、民間側からの具体的な要望を行なった。(本誌令和5年1月号掲載)



▲第1回政策実現委員会

この第6回目となる要望活動に対する各省庁からの回答書がウッドレガシー議員連盟の衛藤征士郎会長に寄せられたことを受けてこの程、木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟は令和5年4月10日12時30分、13時30分まで、東京都千代田区永田町にある衆議院会館・第2議員会下院館B1第4会議室で民政官合同会議・諸官庁回答書に対する協議「木製サッシ



▲ウッドレガシーを推進する議員連盟の武部新事務局長次長・自民党農林部会長



▲ウッドレガシーを推進する議員連盟の三宅伸吾事務局長次長・自民党環境部会長



▲ウッドレガシーを推進する議員連盟の柿沢未途事務局長・自民党国対副委員長

の防音工事標準仕様書について」と題する「第1回政策実現委員会」(原口博光委員長、長谷川泰治委員、門脇秀策委員、真柄幸男委員、平田耕一委員)を、木製サッシの防音工事標準仕様書に関わる国土交通省、防衛省、林野庁の担当幹部官、並びに具体的な要望を行なったウッドレガシー推進協議会及び企業関係者を招請して鋭意開催した。今回の第1回の政策実現委員会が具体的に確認されたことは、ウッドレガシー推進協議会メンバーでもある(株)日本の窓が製作した日本産材を使った木製サッシは、実験に基づいた規定以上の省エネ・断熱性能及び防音性能を保持していることが日本建材センターでも証明されており、既に環境省や国土



▲(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の原口博光会長



▲(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の平田耕一広報委員長



▲(株)長谷川萬治商店の長谷川泰治社長・政策実現委員

交通省でも確認している。そうしたことから仕様規定でアルミサッシや樹脂サッシを発注採用している防衛省でも今後は、性能規定を担保している(株)日本の窓製木製サッシの採用を引き続き検討して行くとしている。殊に、気密性や遮音性を高めている防音サッシの厳しい性能基準に日本産材を使った木製サッシが、仮に防衛省等の建築物に採用される意義は大きい。例えば今後、飛行場近くの住宅や公共建築をはじめ、遮音・防音の必要なあらゆる場面で性能仕様発注が当たり前となれば、国内木製サッシ分野の産業拡大とそれに伴うカーボンニュートラ



▲左から(株)日本の窓の梅田規久夫顧問、荻野智二社長、佐藤正志専務





▲小島孝文林野庁林政部木材利用課長、齋藤健一林野庁木材産業課長



▲織田 央 林野庁長官



▲深澤雅貴防衛省地方協力局長

ルへの環境創成も大きく加速しよう。  
正にエポックメイキングとしての第1回政策実現委員会である。民間要望団体である（一社）木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会と木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する議員連盟の要望実現に向けた、関係諸官庁を巻き込んだタッグプレイにより、森林・木材産業への各省庁からの助成も年々増加傾向にはある。

## 木の総合文化（ウッドレガシー）議論における要望と回答

■要望者＝（株）東京組、（株）日本の窓

日本の森林の正常な循環サイクルの維持するためにも窓サッシもアルミや樹脂製に変わって日本産材使用の木製サッシに補助金を出す等の積極的な政策を要望します。

■回答＝環境省地球環境局

1. 木製サッシは、一般的に、アルミサッシより大幅に省エネ性能が高く、例えば、複層ガラスの場合には、アルミサッシと比べて25%程度断熱性能が高いものと承知しています。

2. 環境省としては、住宅の高断熱化による省エネ・省CO<sub>2</sub>化を支援するため、従来からZEH化等による建築物の脱炭素化を推進する事業を行っているほか、断熱窓への改修を促進する事業を令和4年度補正予算案に盛り込んだところです。これらも活用し、木製サッシも含めて、断熱性能の高い窓の普及を促進してまいります。

■要望者＝（株）東京組、（株）日本の窓

（生産時における一次エネルギーが極端に低い商品に対する助成金の要望）高断熱窓の一次エネルギーが極端に低い木製サッシに限定して助成金を優遇することを要望します。

■回答＝国都交通省住宅局

○木製サッシは、アルミ製サッシと比べて熱を伝えにくいため、建築物省エネ法に基づく省エネ基準の適用にあたっては、断熱性能が高く評価されていることから、その普及を図ることは、住宅・建築物の省エネ性能の向上につながるものと考えております。

○このため、国土交通省においては、木製サッシの活用をしているものなど、高い省エネ性能を有する住宅・建築物を整備する事業に対する支援を行っております。  
○また、本年11月より公布・施行され

た誘導仕様基準の的確な運用は、木製サッシの窓の普及を促す効果があると考えております。建築士や住宅事業者向けの講習会等において、木製サッシ等の性能の高いサッシを用いることが、有効な選択肢であることについて周知してまいります。

○これらの施策により、木製サッシの窓の普及も促しながら、住宅・建築物の省エネ性能の向上に取り組みで参ります。

■要望者＝（株）東京組、（株）日本の窓

■回答＝（株）東京組、（株）日本の窓

（生産時における一次エネルギーが極端に低い商品に対する助成金の要望）高断熱窓の一次エネルギーが極端に低い木製サッシに限定して助成金を優遇することを要望します。

【日本産材使用の窓サッシに対する助成金の要望】

日本産材使用の木製サッシに補助金を出す等の積極的な政策を要望します。

■回答＝林野庁木材産業課

1 木製サッシは、一般的に、金属製サッシと比べて熱を伝えにくく、省エネ性能が高いと言われており、省エネ性能が高いと言われていると承知している。

2 また、木製サッシについては、針葉樹の無垢材の活用も多いと承知しており、農林水産省としては構造材と比べ付加価値が高い木製サッシなどの建具への木材需要が拡大すれば、林業の採算性向上にもつながるものと考えている。

3 このため、農林水産省では①川上から川下までの事業者の連携による高付加価値な製品等の開発・普及啓発 ②CLTや木質耐火部材等の製品・技術の開発や建築物の実証への支援に取り組みでおり、木製サッシについて支援をすることも可能となっている。

■要望者＝（株）東京組、（株）日本の窓  
防音用サッシに木製サッシが



住宅防音工事標準仕方書に記載されていないサッシなどを使用することは可能ですか？

住宅防音工事標準仕方書に記載されていないサッシなどの使用については、遮音性などの一定の性能を満たす場合には、アルミ製、樹脂製にかかわらず木製サッシなども使用することも可能となりますので、具体的なお要望がある場合には、〇〇防衛局にお問い合わせください。  
なお、現在使用している製品よりも高価な製品を使用する場合、そのグレードアップするための費用は自己負担となります。

▲防衛省東北防衛局 HP から図引用



「住宅用防音工事採用防音材料」に採用できるように要望します。

防音工事における防音サッシは国土交通省・防衛省から発行されている「住宅用防音工事について」の中の「住宅用防音工事採用防音材料」に基づきアルミサッシと樹脂サッシを使用するように定められておりますが、木製についてはサッシとすら認められておりません。防音特性にも優れている性能を有する木製サッシも選考基準に加えていただきたくよう要望いたします。

■回答＝防衛省

○以前いただいた御要望も踏まえ、令和2年度に、木製サッシに係る国内の製造状況、性能、価格などについての情報収集を行い、引き続き、木製サッシに係るメーカーへのヒアリングや、その結果を踏まえた検討などの調査業務を行っているところとす。

○防衛省としては、当該調査結果等を踏まえ、防音工事における木製サッシの取扱について、引き続き、検討してまいります。

ちなみに、第1回政策実現委員会を受けて早速、防衛省東北防衛局ホームページには「Q&A」で木製サッシの使用も可能になった旨を取りが掲載された。